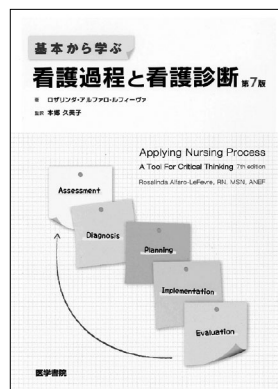


『基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版』 クリティカルシンキングを 導く看護過程の指南書

著：ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ／監訳：本郷久美子
定価：2,730 円(本体 2,600 円＋税 5%)／発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



慢性疾患が増加し、在院日数の短縮化が進む近年、患者の療養生活を支援していくうえで看護職が担う専門的役割はいっそう重要になっている。さらに、多職種の協働的なアプローチによる医療が推奨され、看護師も専門職の一員として、さまざまな場面で“看護の視点からの判断提示”が求められるようになってきた。その一方で、多くの医療施設で電子カルテの導入が進み、コンピュータ内に標準化された診断名や看護計画などが取り込まれたため、十分な思考を経ずにカルテを作成できてしまう現状もある。看護師が専門職として自律的に思考し、正確な推論や診断を導くことが、ますます重要な時代になったといえるだろう。

本書は、四半世紀にわたってすべての看護師に向けて、“看護過程”という看護の視点を導くためのプロセスを、明確かつ簡潔に示してきたテキストである。改訂を重ねるたびに、看護師の臨床推論や診断的判断のスキルを高めることにも力点が置かれるようになり、前版に引き続き第7版でも、クリティカルシンキングを強化させるための工夫が数多く盛り込まれている。各章に設けられた「練習問題」をはじめ、本文中に散りばめられた「ルール」や「エキスパートからのアドバイス」といった tips は、学生から現場の看護師まで、あらゆる読者のクリティカルシンキングを大いに刺

激することだろう。

また、今回の改訂で印象深いのは、看護過程のアセスメントの段階で“迅速優先アセスメント”という項目が加えられたことである。これまでの看護過程では、情報を網羅的に集め、それらを徹底的に検討するよう教えられることが多かったと思われる。しかし、実際の臨床現場では、その場の状況を正確につかみ、的確な予測のもと優先性を見極め、速やかな行動につなぐことがしばしば要求される。こうした側面に対応するのが、“迅速優先アセスメント”であり、現在多くの研究者が注目しているテーマでもある。

第7版になっても、看護過程に関する基本的な考え方や説明の道筋などは、これまでと何ら変わっていない。そして、学習者に対する筆者のまなざしも変わらずあたたかなままである。しかし、専門職として確かな臨床判断と確実なケア提供が求められる時代になった今日、クリティカルシンキングを促すツールとして、看護過程の重要性は高まる一方である。本書はまさに、看護が直面する課題解決に向けた能力を育成するための指南書といえるだろう。